

かわさき区の宝物シート

宝物No.	うばがもりべんざいてんどいど
22-1	姥ヶ森弁財天と井戸

エリア	田島地区	シーズン	春
	鋼管通・小田栄	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



新田神社に遷座された弁財天(左)と神事に供される御神水



写真提供：稲毛神社／NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区鋼管通3-3-13
問い合わせ	稲毛神社社務所
TEL	044-222-4554
FAX	044-245-2003
E-mail	info@takemikatsuchi.net
URL	http://takemikatsuchi.net/saiten/index.html (稲毛神社HP「川崎山王祭」)
交通	JR川崎駅よりバス15分「JFE前」下車徒歩1分またはJR浜川崎駅から徒歩3分



基礎情報

■姥ヶ森という弁天様を祀る御手洗池の跡といわれている。明治末年の小神社合祀令によって、弁財天はここ鋼管3丁目から近くの「新田神社」の境内に遷座された。町名も「鋼管通」と変更されたものの、地元の人々は「姥が森町内会」と名を残し、町内会館のとなりに現在でも弁天様を祀り、御手洗池の跡と伝えられる井戸を守っている。

■新田神社に移された弁財天は、稲毛神社の「川崎山王祭」の大神輿が詣でるポイントのひとつとなっている。

由来・エピソード

■「姥ヶ森の井戸」には二つの言い伝えがある。一つは、『昔一人の老婆が住んでいて篤く山王社を信仰し、毎朝、森の池に湧く清水を汲み神前に供えていた。老婆は死後「姥が森弁財天」として祀られ、山王社の御旅所になった。』というもの。もう一つは、『海浜に姥が森という弁天様を祀る森があり、新田義貞公の寄進した馬場と御手洗池があった。ある日、一人の乳母が山王様の神様の童子を連れて馬競べを見ていたところ、ふとしたことから童子が転んで片眼を失い、それがもとで死んでしまった。その後、森や池にすむ蛙や蛇、魚がみな片眼になってしまった。』というものである。この姥ヶ森にあったとされる御手洗池の跡である、と今も伝えられているのが姥ヶ森の井戸である。

■川崎山王祭の大御輿が新田神社の姥ヶ森弁財天の前に着くと、姥ヶ森町内会の役員が井戸から汲んだ御神水が神前に供えられ、神輿の渡御の無事が祈願される。

補足・その他

関連シート

- (1-14) 稲毛神社
- (1-16) 川崎山王祭
- (8-3) 新田神社